

メンバー製品の販路開拓

若手農家団体「夢農人とよた」

居酒屋向けや イベント出店 収益確保めざす

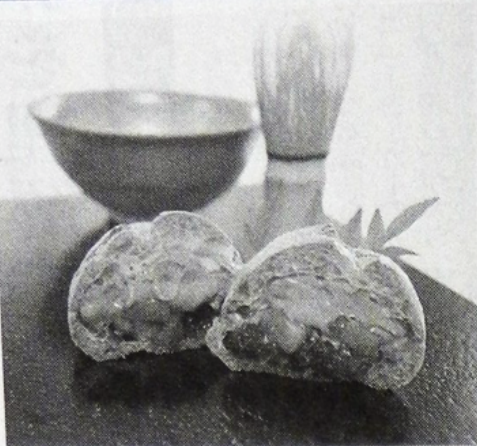
地元農業の情報発信に取り組む若手農家団体「夢農人（ゆめのひと）とよた」（事務局＝豊田市陣中町2の2の21ルーフ内、鋤柄雄一会長、電話0565・342・171）は、メンバーの製品の販路開拓に力を注ぐ。地元の和・洋菓子店の新商品の食材や、居酒屋の宴会コースに採用されるなど、飲食店や食品業者との関係も広がり始めた。イベントへの出店といったPR活動に取り組みながら、収益を確保できる農業の確立を目指す。（豊田・強田裕史）



鋤柄雄一 会長

和菓子と洋菓子の店「居酒屋「康家」」は、舗を個別に経営する忘・新年会シーズンに「松華堂」（豊田市）あわせ、夢農人メンバーの製品を取り入れた宴会コースを5千～7千円で販売している。

新商品として開発した。クリームに混ぜ込む抹茶の原料は、夢農人メンバーの2軒の茶栽培農家から仕入れた。小豆やキントキ芋といった食材も、メンバーの産品を使用して



メンバーの産品が採用された松華堂の抹茶シュウクリーム

夢農人とよたは、10年の発足以来、地域イベントに参加し、軽トラックで産品を持ち寄り販売する「軽トラ市」で農業を発信してきた。

た。豊田青年会議所が開催した、豊田版B-1グルメを決める「おいでんグランプリ」にも出場し、独自に考案した「このまちうどん」で優勝を果たした。これにより認知度が一層高まり、イベント出店の依頼が激増した。こうしてPRに力を注ぐ一方、製品の販路開拓も模索していた。しかし、活動内容が収益に直接結びつくまでに至っていないのが実情だった。

今回、夢農人が窓口となり、飲食店や菓子店にメンバーの産品が相次いで採用された事例を、販路開拓のきっかけにしたい考えだ。鋤柄会長は「一度食べてもらえば、われわれが作る食材の良さが伝わると思う」と期待を寄せている。